

各館開催講座のご案内

※日時や会場、内容等が変更になる場合がございます。最新情報は各館HPやお電話にてご確認ください。

<b>新潟県立近代美術館</b>	<b>新潟県立万代島美術館</b>	<b>新潟市美術館</b>	<b>新潟市新津美術館</b>
TEL 0258-28-4111 長岡市千秋3丁目278-14 http://kinbi.pref.niigata.lg.jp/	TEL 025-290-6655 新潟市中央区万代島5-1 朱鷺メッセ内 万代島ビル5階 http://banbi.pref.niigata.lg.jp/	TEL 025-223-1622 新潟市中央区西大畑町5191-9 http://www.ncam.jp/	TEL 0250-25-1300 新潟市秋葉区蒲ヶ沢109-1 http://www.city.niigata.lg.jp/nam/

開催日時	講座名/講師	講座内容	会場/定員
近代美 7月1日(土) 14:00~15:30	<b>版画のはなし</b> 松矢 国憲 (近代美術館 専門学芸員)	日本の版画の歴史を辿りつつ、浮世絵版画や近代の創作版画運動、佐渡の版画村運動にもふれ、様々な版画を紹介します。	新潟県立近代美術館 講堂 165名
万代島美 7月9日(日) 14:00~15:30	<b>レオナルド・フジタと5人の妻たち</b> 澤田 佳三 (万代島美術館 業務課課長代理)	フジタ(藤田嗣治 1886-1968) は生涯で5人の女性を妻としました。モデルとして、また妻としてフジタの画家としての人生に影響を与え、彼の画風も変化していきました。ここでは、5人の女性たちとの関わりからフジタを考えます。	NICOプラザ会議室 (朱鷺メッセ内万代島ビル11階) 60名
近代美 8月5日(土) 14:00~15:30	<b>加山又造 —伝統と革新</b> 宮下 東子 (近代美術館 学芸課課長代理)	加山又造は、日本の伝統的な絵画を基盤に、鋭く新しい感覚の作品を生み出し続けましたが、その影には西欧の様々な絵画の吸収がありました。伝統と革新をキーワードに加山の作品を探ります。	新潟県立近代美術館 講堂 165名
新潟市美 8月19日(土) 14:00~15:30	<b>前川國男と亀倉雄策 —戦前編—</b> 星野 立子 (新潟市美術館 学芸員)	建築家・前川國男とグラフィックデザイナー・亀倉雄策。戦後それぞれの分野をリードした二人は、ともに新潟に生まれ、生前親しく交流したと言われています。両氏の戦前期の活動について並行して振り返り、彼らがこの時期に育んだものや、当時の建築・デザイン界について考えます。	新潟市美術館 2階講堂 100名
万代島美 8月20日(日) 14:00~15:30	<b>日本画家/挿絵画家 水島爾保布とピアズリー</b> 桐原 浩 (万代島美術館 業務課長)	長岡で物故した水島爾保布(みずしま におう 1884-1958)の大正期の日本画や挿画は、英国世紀末に活躍したピアズリー作品を引合いに語られました。はたして、爾保布はピアズリーから影響を受けていたのでしょうか。その実情を解説します。	NICOプラザ会議室 (朱鷺メッセ内万代島ビル11階) 60名
新潟市美 9月16日(土) 14:00~15:30	<b>3・11以降の写真</b> 荒井 直美 (新潟市美術館 学芸員)	未曾有の災害となった東日本大震災。写真はそのとき何を伝えたのか。3・11以降の写真集や写真展の具体例を取り上げ、それぞれの写真家たちのふるまいをひもときながら、写真というメディアについて考えます。	新潟市美術館 2階講堂 100名
万代島美 10月21日(土) 14:00~15:30	<b>デザイナー・亀倉雄策の うつくしい暮らし</b> 今井 有 (万代島美術館 業務課課長代理)	燕市出身のグラフィックデザイナー亀倉雄策(1915-1997)が収集した絵画や彫刻、工芸品、民芸品などをご紹介しながら、亀倉の審美眼についてお話しします。	NICOプラザ会議室 (朱鷺メッセ内万代島ビル11階) 60名
近代美 10月28日(土) 14:00~15:30	<b>画家・萬鐵五郎への視点— 藤田嗣治とくらべてみる</b> 澤田 佳三 (万代島美術館 業務課課長代理)	萬鐵五郎(1885-1927)の画業を理解するために、同年代の画家・藤田嗣治(1886-1968)と比較します。主にフランスで活躍した藤田とは一見無関係のようにも思えますが、2人の間にはいくつもの共通点があり、また対照的な面もあります。そこから見えてくるものを考えます。	新潟県立近代美術館 講堂 165名
新津美 11月12日(日) 14:00~15:30	<b>新潟に残る名品たち</b> 横山 秀樹 (新津美術館 館長)	新潟県内には、新潟出身の画家たちが描いて残された作品や、県内のコレクターや美術館が収集した様々な分野の作品があります。普段私たちが、あまり目にする事ができないこれらの作品を紹介し、わかりやすくお話しします。	新潟市新津美術館 1Fレクチャールーム 60名
新潟市美 11月18日(土) 14:00~15:30	<b>異界の美術史</b> 松本 美樹 (新潟市美術館 学芸員)	怪物、魔法使いといった不思議な生き物、現実にはあり得ないような出来事…これらは現在までどのように美術作品に表現されてきたのか、異界が表現された美術の歴史を巡ります。	新潟市美術館 2階講堂 100名

新津美	11月26日(日)	<b>三浦文治による素描《昭和天皇巡幸記》を読み解く</b>	新潟県の画家、三浦文治（1906-1994）は、昭和天皇による戦後の全国巡幸のうち1947年の新潟県訪問を追って38点の素描を残しています。市井の人の様子を含むそれら素描を紹介し、混迷の時代にあつて画家が見たものに迫ります。	新潟市新津美術館 1Fレクチャールーム
	14:00～15:30	長島 彩音（新津美術館 学芸員）		60名
新津美	12月3日(日)	<b>新潟の美術のあけぼの</b>	歴史を遡り、初期の新潟の美術史を概観します。縄文時代から近世までの新潟において生み出され、多くの人の手で大切に受け継がれてきた新潟の美術をあらためて見直し、その魅力についてお話しします。	新潟市新津美術館 1Fレクチャールーム
	14:00～15:30	大森 慎子（新津美術館 学芸員）		60名
近代美	12月9日(土)	<b>友情の双像と武石弘三郎</b>	かたく握手を交わす堀口大學の父・久萬一と武石貞松。二人の生涯変わらぬ友情を表した彫像《友情の双像》が長岡市若宮神社に建立されています。像の作者は貞松の弟であり、彫塑家である武石弘三郎。弘三郎の作例について、双像を中心にお話しします。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	伊澤 朋美（近代美術館 主任学芸員）		165名
新津美	12月10日(日)	<b>新潟の工芸 ～竹工芸の現在(いま)を探る</b>	工芸分野の中から、竹工芸についてご紹介します。現在の竹工芸がどのような経緯を辿ってきたかを踏まえ、竹を用いて表現活動を行う作家たちの創造に迫ります。	新潟市新津美術館 1Fレクチャールーム
	14:00～15:30	奥村 真名美（新津美術館 学芸員）		60名
新潟市美	12月16日(土)	<b>阿部展也 線描の魅力</b>	新潟県出身の画家・阿部展也。油彩などの大型作品と並行して、初期の代表作である詩画集『妖精の距離』（1937刊行、詩：瀧口修造）の鉛筆ドローイングをはじめ、水彩スケッチ、挿絵など、多彩な「線」による小品たちも生み出しました。当館所蔵品から、その魅力をご紹介します。	新潟市美術館 2階講堂
	14:00～15:30	上池 仁子（新潟市美術館 学芸員）		100名
新津美	12月17日(日)	<b>新津出身の漫画家 高野文子</b>	新津出身の漫画家高野文子は『絶対安全剃刀』や『黄色い本』などで知られ、漫画界のニューウェーブの騎手として注目されました。新津をモデルにした作品や12年ぶりの新作『ドミトリーともきんず』を中心に、その魅力についてお話しします。	新潟市新津美術館 1Fレクチャールーム
	14:00～15:30	大野 智世（新津美術館 学芸員）		60名
近代美	2018年 1月6日(土)	<b>堀口大學と美しい書物</b>	大正末から昭和初期にかけて、画家や版画家が装丁に加わり様々な意匠を凝らした工芸品のような本が生み出されました。『月下の一群』など堀口大學の著訳書を通して美しい書物の世界をわかりやすくご紹介します。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	平石 昌子（近代美術館 学芸課課長代理）		165名
新潟市美	2018年 1月20日(土)	<b>映画は変わったか</b>	映画史の古典とされるリュミエールやグリフィスの「新しさ」、そして現代映画を代表する名匠イーストウッドやスピルバーグの「古さ」を考えます。そしてトリュフォーやゴダールの映画運動「ヌーヴェルヴァーグ」は、映画の「古さ」と「新しさ」にどう関わったのでしょうか。	新潟市美術館 2階講堂
	14:00～15:30	藤井 素彦（新潟市美術館 学芸員）		100名
近代美	2018年 2月3日(土)	<b>異邦人たちのパリ</b>	20世紀前半のパリは、国内外の多くの芸術家たちを惹きつける、まさに「芸術の都」でした。なぜパリがこの時期に芸術の中心地と成り得たのか。その歴史的背景と、そこから誕生した新しい芸術動向についてご紹介します。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	濱田 真由美（近代美術館 主任学芸員）		165名
新潟市美	2018年 2月17日(土)	<b>ナビ派とボナールの時代</b>	ゴーギャン、セザンヌ、ルドンらポスト印象派の画家たちの仕事を引継ぎ、20世紀美術の「預言者」を自任して活動したグループ「ナビ派」。近年の国際的な再評価の機運も確認しながら、彼らが果たした歴史的な役割と、中心メンバーのひとりボナール（当館所蔵作品の画家）の足跡をお話しします。	新潟市美術館 2階講堂
	14:00～15:30	松沢 寿重（新潟市美術館 学芸員）		100名
近代美	2018年 2月24日(土)	<b>ディズニー映画の魅力</b>	ディズニー・アート展の開催に併せて、アニメーションに注目されがちなディズニー映画の中から現在まで続く実写映画にスポットを当てて、ディズニー映画の魅力を探ります。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	藤田 裕彦（近代美術館 学芸課長）		165名
近代美	2018年 3月3日(土)	<b>母子像に親しむ</b>	母子というモチーフは、母子に向ける作者のあたたかな視線を感じられるものとして、洋の東西を問わず現在にいたるまで広く親しまれているものです。コレクション展「母たちの肖像」の展示品を交えながら、母子を描いた作品についてご紹介します。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	松本 奈穂子（近代美術館 美術学芸員）		165名
新潟市美	2018年 3月17日(土)	<b>絵画の解剖術 —構図と遠近法</b>	絵画の骨組ともいえる構図や遠近法の分析を通して、美術作品のもつドラマを解き明かします。それは作品を解剖する行為ともいえるでしょう。「ドラマツルギー」という言葉よりルネサンスから近代にいたる画家たちが作り出すドラマが、ドラマたるゆえんを探ります。	新潟市美術館 2階講堂
	14:00～15:30	児矢野 あゆみ（新潟市美術館 学芸員）		100名